



教所長後継者」と結婚し、二人の子供に恵まれた。子育てがひと段落してからは「布教所として、地域に根差したおたすけ活動がしたいね」と、家族で談じ合っていた。そんななか、「子ども食堂」を特集したテレビ番組を目にする。料理が得意な真理さんは「私にもできるかもしれない……」と興味を持った。

「子供にとって、家でも学校でもない『居場所』が必要なんだ」と、あらためて感じた真理さんは、すでに「子ども食堂」を開いていた近くの教会へ赴き、運営方法などを学んだ。また直樹さんは、独自に案内チラシやホームページを作成。2千枚のチラシを、家族全員でポスティングした。迎えた初回の実施日。所属教会の信者らがスタッフを務めるなか、子供17人、大人22人が集まった。

西まさみさん(53歳・奈良市)は「乾さん家族の人柄もあって、毎回、雰囲気の良い『子ども食堂』になっている」と語る。さらに、地域のスーパーマーケットをはじめ、近所で家庭菜園をしている人が食材を提供してくれるようになった。

### 母親とつながって

「子ども食堂」の取り組みが軌道に乗ったころ、不登

奈良県大和郡山市。本部直属大阪分教会正純布教所(乾菅子所長)の前で、「せいじゅんたすけあい子ども食堂」の旗が掲げられる。

7月7日。布教所の庭に設置されたビニールプールで、子供たちが水遊びに興じるなか、屋内には七夕の笹竹が立てられた。

「子ども食堂が無くなりませんように!!」。一人の子供が願いを込めた一枚の短冊が笹に結ばれ、ゆらゆら揺れている。

優しい眼差しで短冊を見つめる、同食堂代表の乾真理さん(54歳・同布教所長後継者夫人)は「参加した人が、日常生活の疲れから身も心も休めて笑顔になれる『とまり木』のような活動を心がけている」と穏やかに語る。

### 居場所が必要

家庭の事情などで十分な食事ができない子供や、一人で食事をする子供を支援するため、無料または低額で食事を提供する「子ども食堂」。同布教所では、昨年7月から月1回、休日の午前11時に開いている。京都府にある教会で生まれた真理さん。平成元年、夫の直樹さん(56歳・同布

# 家族3世代が力を合わせ 地域住民の『とまり木』に

## 奈良の乾 真理さん

め、布教所長の義母・菅子さん(82歳)、長女・千尋さん(28歳・同布教所ようほく)が「やってみよう」と二つ返事で同意した。「家族が一丸となって協力してくれたことが、とても頼もしかった」

以後、毎月約3千枚のチラシ配布を続けるなか、参加者が知り合いを連れてくるなどして交流の輪が広がり、多いときは56人が参加するようになった。また、ホームページをきっかけに、県内外からボランティアを志望する人が徐々に増え、高校生や大学生らが毎月、手伝いにやって来る。ボランティアの一人、岡



「せいじゅんたすけあい子ども食堂」に集まった子供たちを見守る真理さん(写真中央)、直樹さん(同右)、菅子さん(同左)

さらに、子育て中の母親が、ゆっくりできるひと時と場所を提供しよう」と、「Mommy's CAFE」を今年2月にオープン。真理さんは「私が子育てをしていたとき、すぐにお義母さんに頼れたように、気軽に相談できる場があるといいな」と思っており、その狙いを話す。

### コラム 「子ども服おさがり交流会」

サイズが合わなくなった子供服やおもちゃ、文房具などを募り、参加者が自由に持ち帰ることができるというもの。今年3月に初めて企画し、物品の提供を呼びかけたところ、2000点を超える協力があつた。当日は、母親たちが自分の子供に合う服や、おもちゃを持ち帰り、好評だった。以後、毎月の「子ども食堂」開催日に「おさがりお持ち帰りゾーン」を設けている。

真理さんは「『子ども食堂』や『CAFE』をきっかけに、地域の親子とつながりを強め、ゆっくりは、いつでも頼ってもらえるような関係を目指したい。そのために、ここを『とまり木』にしてもらって、ゆっくり休んで、また元気に日常生活を送ってもらえるように手助けをしたい。心に悩みを抱える方々には、折々にお道のエッセンスを伝えていければ」と語った。

えた。真理さんと千尋さんが昼食を準備する間、菅子さんが幼子をあやす。昼食後、「ゆっくりしてね」と真理さんに声をかけられた参加者は、リラックアして雑誌を読んだり、会話を楽しんだりしていた。「子ども食堂」のチラシの裏面に記された「CAFE」の告知を見て参加したという岡田愛さんの32歳・同市)は「いつもは子供に離乳食を食べさせた後、慌ただしく自分の食事を済ませているが、今日は子供の面倒を見てもらって、ゆっくりと食事をする事ができた」と微笑む。